

# 第2回ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム会議

- ・日時 令和3年7月19日（月）午後1時30分～
- ・場所 大阪市役所 5階 特別会議室

（事務局  
・こども青少年局企画部企画課  
・教育委員会事務局総務部教育政策課）

# 次 第

## 開 会

- ・プロジェクトチームリーダー（副市長）あいさつ
- ・会議出席者の紹介

## 議 事

- 1 支援に向けた取組について（P1～12）
  - （1）国の連携プロジェクトチーム報告（令和3年5月17日）
  - （2）ヤングケアラーへの支援の状況
  - （3）早期発見・把握に向けた研修について
  - （4）優先して実施する支援策について
- 2 実態調査について（P13～14）
- 3 ロードマップについて（P15）
- 4 その他

## 資料

---

- P 1 ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告
- P 2 国の連携プロジェクトチーム報告書（令和3年5月17日）まとめ
- P 3 ヤングケアラーへの支援イメージ
- P 4 ケアを必要とする家族に対する福祉サービス
- P 5 福祉サービスにおける家事援助
- P 6 世話を必要としている家族の状況と世話の内容
- P 7 早期発見・把握に向けた研修について（案）
- P 8 優先して実施する支援策について（案）
- P13 実態調査について（案）
- P15 ロードマップについて（案）

## 参考資料

---

- 参考資料 1 ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム設置要綱
- 参考資料 2 第2回ヤングケアラー支援に向けたプロジェクトチーム会議出席者名簿



# 振り返り：第1回会議での意見について

---

- 話を聞いてもらえるだけでもよかったとの声もあり、単に支援メニューを用意するのではなく、社会とつながりを持たせていく必要がある。
- 公的な介護支援・介護サービスが提供できていても、それだけでは解決できない課題があり、こどもの声を聞く、相談に乗るなど、公的支援以外の地域を含めた支援の仕組みが重要
- 身体的虐待等への対応が優先され、相談機関につなぎにくいことがあった。支援の拠点や多方面からの支援が必要だと思う。ヤングケアラーへの対応の優先度をあげることや認識を深めることが重要
- 教員のスキル向上も重要のため、調査前にヤングケアラーの理解を深め、体制を整えて行いたい。
- 既存策につながりきれていない、支援策そのものを周知する、相談等のハードルを下げるなどできることからやっていきたい

## ➡ **こどもの話を聞く、こどもと接する大人の“ヤングケアラー”に関する理解を深めることが必要との指摘**

- こどもへの支援を進めるには、民間の力を借りる必要がある。委託契約が単年度ごとになりがちで、民間でスキルのある担い手を育てられない、こどもと人間関係を形成しても支援団体が変更になれば、人間関係をつなぎなおさなければならない。

## ➡ **契約事務手続きの課題に対する指摘（「長期継続契約を締結することができる契約を定める条例」に該当する場合は、単年度によらないで契約することができる）**

